

働きすぎ黒書 ニュース

全日本教職員組合（全教）生権局

2006年12月20日

東京都千代田区二番町12-1 3F

学校に慣れるよりも「英語」

東京・小学校養護教諭

うちの区の先生たちの忙しさの原因のひとつは、他区にさきがけて始まった「英語」です。週1時間の授業のためにAET（アシスタント・イングリッシュ・ティーチャー）と授業プランを立て、教材を作り、準備しています。年10回以上の英語研修は、都合で欠席した場合は振り替えをするという念の入れよう。普段の日にあるので、担任が3～4人抜けると手が足りず大変です。もちろん私は「保健室ではクラスルームイングリッシュはやりませんので…」と丁重にお断りしましたが、担任はそうもいきません。特に他区から異動してきた方は、辞令伝達式の次の日から研修という凄まじさ。新しい学校になれるよりも英語、という感じで、みなさん「げっそり」です。

また「授業づくり研修」などの名前で、初任者研修も5年目まであり、若い先生たちも疲れています。いつもいつもみんなが8時くらいまで残っているので「悪くて自分だけ帰りにくくて…」と気にかけている養護教諭もいます。

4月からは『土曜スクール』も始まりました。月1～2回土曜日の午前中、国語と算数の復習が中心です。登下校の見守りや、プリントの準備などやることは膨大です。その他にチャレンジサタデーとしていろいろな行事も組まれています。10月には区主催の学校説明会もあります。1つの会場に各学校のブースが作られ学校の歴史、1年間の行事の説明などがパネルで飾られ、まるで企業の就職説明会のようです。「意味ないな～」と誰もが思っている、自分の学校だけ何も飾らないわけにもいかず、パネルを作ったり、ビデオ撮影をしたり、またまた準備に追われることになります。

普通の毎日でも十分忙しいのに、次々と新しいことに追われる先生たちの健康はますます心配です。